

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-0590
施設名	昭島ゆりかご第二保育園
施設所在地	昭島市田中町3-5-20
法人名	社会福祉法人ゆりかご会

1. 活動のテーマ

<テーマ>

音

<テーマの設定理由>

普段、意識をしない日常の中にあふれる「音」を見つけ、その音から連想する子どもたちの主体的な姿を大切にするため。音にはどんな音があって、どんな物でどんな音がするのか、子どもの探求心を刺激する。

2. 活動スケジュール

- ・ トウモロコシの皮むき
 - ・ 室内で聞く自然の音（雨音 かみなりの音）
 - ・ 水の音（水遊びのスプリンクラーで出る時・プールで水面を叩いたり、バタ足をした時）
 - ・ 散歩途中に聞こえてくる自然の音（川を流れるの水の音、風の音、落ち葉を踏んだ音）
 - ・ 生活の中で聞こえてくる音、類似した音（近くの道路を大きな車が走った時の音や運動遊びでマットに着地した時の音、花火の音、生活音）
- これらの発見・違いや類似を発見。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

【準備した素材】

- ・ 皮付きのトウモロコシ
- ・ ボウル
- ・ 保育マット
- ・ プール
- ・ ホース
- ・ スプリンクラー
- ・ 記録用のスマートホン

【環境設定】

- ・ 食育で季節の食材に触れる。
- ・ 子どもが気づいた音をみんなで確認したり共有したりする時間を設ける。
- ・ 子どもの気づきから発展されるものを保育に取り入れる。（類似の音から連想した物を製作で表現するなど）
- ・ 子どもの気づきの音の出所やどのような音だったのかを探す。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

『きっかけ』

・食育のトウモロコシの皮むきをした際に、皮を剥こうとしたら思ってもみなかった葉っぱの音を発見したことがきっかけとなり、音に興味を持つようになった。音がするたびに、この音は何の音？どこからしている音？と関心を示す。

『音探し・発見』

・音がすると耳を澄まし聞こえてくる音に集中したり、友だちと共有したりして音の発見を楽しむ。
・その音がどこから聞こえてくるものなのか、何の音なのか友だちや保育者と一緒に想像したり確かめたりする。

『違いと類似を発見』

・同じ水でも触り方、出方で音に違いがある。
・雷の音と自室の上の部屋で机などが動くに似た音がする。
・葉っぱでも元気な葉っぱと枯れた葉っぱでは音が違う。

遊びや生活の中でこれらに気付いたり、発見したりする。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

『きっかけ』

・トウモロコシの葉っぱを剥くと「キュッ」という音がしたことに気づく。「今の音、何？」「キュッてなった」「どれが？」と繰り返し剥き、音を確認めたり音を言葉にして表現し、言い合って楽しんだりする。

『音探し・発見』

・生活の中で聞こえてきた音に耳を澄まし、自室の上の部屋での物音をかみなりの音と思う。保育者がかみなりではないと伝えると、「かみなりかと思った」と、かみなりの音と自室の上の部屋でなる音が似ていることに気付き、音が鳴るたびにこれはかみなりなのか、机が動いた音なのかを子ども同士で「今のはかみなり？」と想像し合う。自分たちで椅子や机を動かして真似てみるが、同じような音が出ないことに気付き、「何の音？」「おばけかな？」「どこからなっているのかな？」とさらに疑問を持ち始める。

・音に興味を持ち始め、プールの水を叩いたりバタ足をしたり物を落としたりして音を出して楽しむ中で、園庭で水遊びをし、スプリンクラーで水を出すとそばに行き「水の音を確認する」と言いつつ、ずぶ濡れになって水遊びを楽しんだ。

・散歩中に川を見つけ前回散歩で見て聞いた時の音と違うと気づき、「川に葉っぱが入っているからじゃない？」「水がたくさんあるからじゃない？」と子ども同士で気づきを伝えあう。保育者に水の音が違うよね？と確認し、なぜ違うのか正解を求める子もいた。水の量で違うのかもねと伝えると、帰園後うがいの際に、コップに入れる水の量や水道から出る水の量でも音が変わること気づき水道で試し違いを知り喜ぶ姿があった。

・室内で運動遊びをした時に、台の上からマットに飛び、着地した時の音が、「ドン」といい、それを聞いて「花火みたいな音」と1人が言うと「花火見た」「花火はヒューパンっていう」など自分の知っている花火を伝え合い始め共有して盛り上がる。そのことをきっかけにその表現から次の日にみんなで花火の製作を楽しんだ。

・散歩先で、風に飛ばされている落ち葉を追いかけ、「葉っぱがカラカラ言ってる」「風もビュー

ビュー言ってる」と風と葉っぱの音を言葉にして表現するようになってきた。また、遊ぶ中で落ち葉を踏むと音が鳴ることを見つけ、踏んだり握ったりして楽しみ、落ち葉を舞い上げて風に飛ばして遊ぶことも楽しんだ。後日、葉っぱをちぎって遊んでいると、枯葉と緑色の葉っぱだと「ちぎれないな」とちぎる感触やちぎれ方が違うことに気が付き始めた。保育者が枯葉を手の中に入れ、握ると一瞬でバラバラになっている様子を見せると「え？何でそうなるの？」「魔法みたい」と興味を持ちいろんな葉っぱで自分たちも楽しみ始め、枯葉だとできることを知った。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

- ・とうもろこしの皮むきでは、子どもたちの中でこんな音がするだろうと予測をしていたことや剥いていく中で思っていた音ではないということに子どもたちが気づき声に出したことで、周りの子どもたちも音に興味を持てるようになり、音を言葉で表現することも楽しみだした。共有することで音を探したり言葉で表現したりする楽しさにも気づけた。
- ・共有をきっかけに音への興味が広がり、生活の中で耳を澄まして発見を楽しんだり、何の音なのか想像力を掻き立てたりして楽しむ姿もよかったと思う。
- ・子どもの気づきから遊びや製作に発展したり、次の気づきや疑問につながったりする姿を見て子どもの気づきを汲み取り、興味を広げていくことの大切さを改めて感じた。
- ・疑問を持ったり不思議に感じたりする中で自分で確かめてみたいと思って動き、その結果他の楽しみを見つけて楽しむ子どもらしい姿も見られてよかった。